2-① 橋梁長期保全事業の推進について

東広島市の現状と課題・取組状況

防災・減災及び経済成長に資する
社会資本整備の促進について

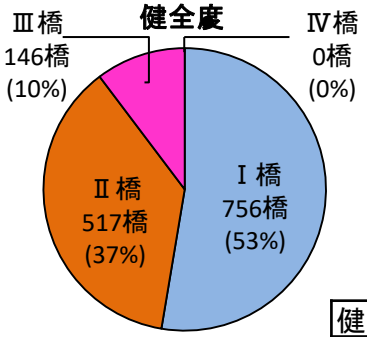
○本市は、1,419橋（法定道路）の橋梁を管理しているが、その多くは1950年から1970年代の高度成長期に建設された橋梁で、老朽化が急速に進行している。

○平成26年度から平成30年度で実施した近接目視点検（1巡目）は、早期対策が必要となる健全度Ⅲの橋梁が10%（146橋）を占めている。平成30年度からは2巡目の近接目視点検を実施している。

○今後、大規模な補修費や架け替え費用が集中的に生じないよう、長寿命化修繕計画を適時見直し、着実に事業を進めていく必要がある。

○法定道路で特に優先度の高い、跨線橋・跨道橋について事業を進めているが、それらの点検や補修に係る事業費の負担が大きく、法定外施設への対応も遅れている。

【H26～30年度 点検（1巡目）結果】



健全度	合計
Ⅰ	756
Ⅱ	517
Ⅲ	146
Ⅳ	0
合計	1419

JR跨線橋については、健全度Ⅲの橋梁を2橋確認している。
（令和4年度末時点）

【本市の跨線橋・跨道橋数】

種 別		法定道路	法定外	計
跨線橋	JR在来線	14橋	6橋	20橋
	JR新幹線	7橋	5橋	12橋
跨道橋	山陽道	8橋	14橋	22橋
	東呉道路	5橋	9橋	14橋
	国道	10橋	7橋	17橋
	県道	5橋	0橋	5橋
合計		49橋	41橋	90橋

※平成26年度～令和4年度までに48橋の補修を実施

【JR跨線橋 互栄橋 】▼

鉄筋の腐食が進み剥落の恐れがある床版